

次世代空モビリティの社会実装に向けた実現プロジェクト

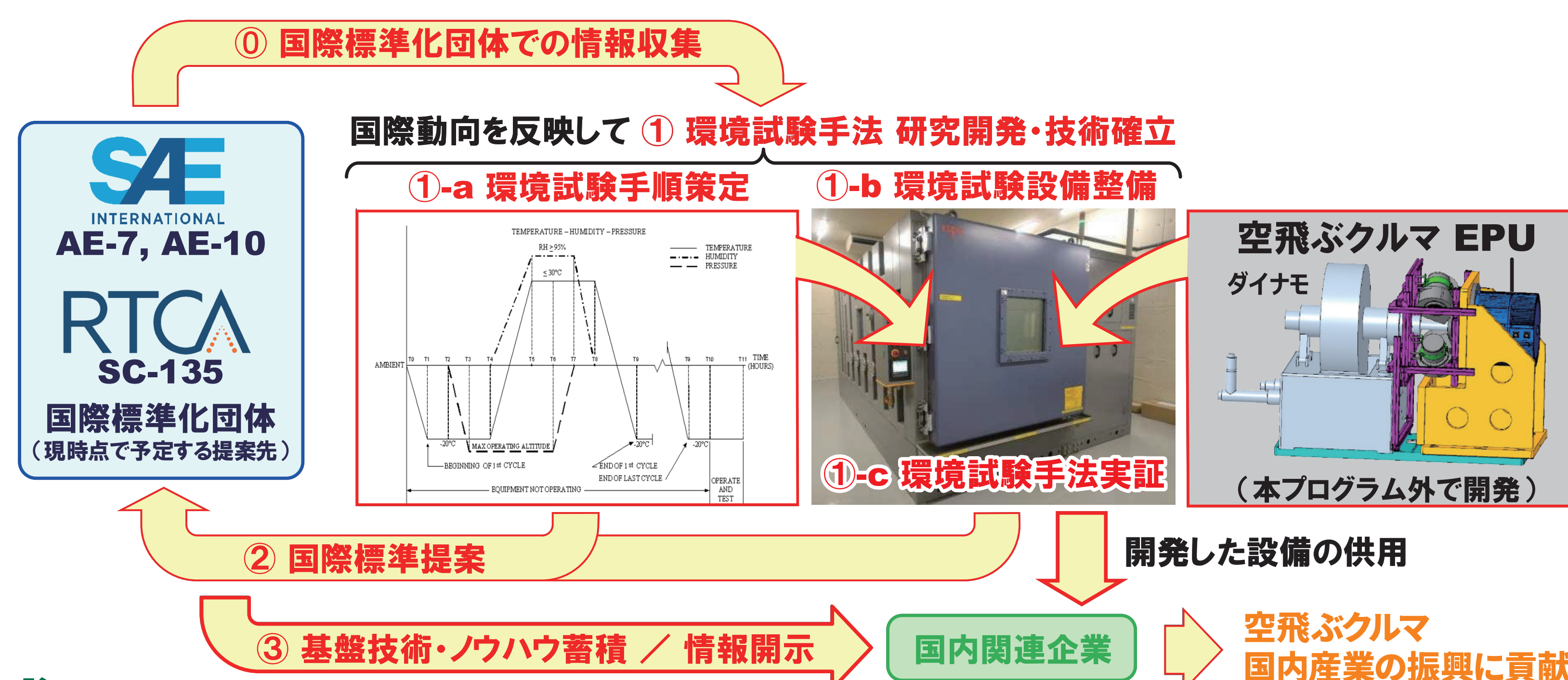
次世代空モビリティの電動推進システムの設計・製造承認に向けた環境試験技術の研究開発

研究開発内容

国内の空飛ぶクルマ産業の振興に貢献することを目的とし、以下の①～③の目標を達成する。

空飛ぶクルマ実用化のキー技術であり、安全に大きく影響する電動推進システム(EPU)を対象として

- ① 実際の飛行を模擬した環境下で性能を評価する環境試験技術(試験手順・試験設備)を確立
- ② 確立した試験手法の国際標準化を目指す
- ③ 基盤技術・ノウハウを蓄積、国内企業へ開示



研究開発成果

- ① 2025年度までに、温度・高度試験、複合試験、着氷試験の試験手順の策定と試験設備の整備を完了、実証試験により「試験技術の確立」の目途を得た。
- ② その成果を基に、2026年度初頭、自動車や航空宇宙分野の標準規格を策定する国際標準化団体であるSAEに対して「国際標準の提案」を実施した。

今後の取組と展望

- ① 実証試験を完了し、「試験技術の確立」を達成する。
- ② 「国際標準の制定」に向けたプロセスを開始する。
- ③ 蓄積データが纏まった段階で「国内企業への開示」を開始する。



新規整備した環境試験設備
(福島ロボットテストフィールド)

体制

- | | | |
|---------------------------|---|----------------------------|
| 【委 託 先】 (国大) 信州大学 | ： | 全体取り纏め、国際標準化の管理 |
| (株) デンソー | ： | 大型EPU用試験設備の整備、温度・高度試験手法の確立 |
| 多摩川精機 (株) | ： | 小型EPU用試験設備の整備、着氷・複合試験手法の確立 |
| 【再委託先】 (公財) 南信州・飯田産業センター | ： | 小型EPU用試験設備の整備 |
| (公財) 福島イノベーション・コースト構想推進機構 | ： | 大型EPU用試験設備の整備 |